



NPO 法人

首都東京みなと創り研究会

東京都練馬区西大泉3丁目13番44号

理事長 小倉健男

<http://members3.jcom.home.ne.jp/mtport>

平成19年度通常総会の開催

当 NPO 法人の通常総会を下記のとおり開催しました。

総会は、会員数39名のうち27名（他委任状10名）が出席し、活発な議論の結果、議案は原案通り承認されました。

今回新たに決まったのは①顧問を設置すること②賛助会員の年会費を1万円から5千円にすることの2点です。なお、顧問は稲垣 哲・柵瀬 信夫の各氏をお迎えし専門的なアドバイスをお願いすることとしました。



日 時 平成19年5月28日（月）
午後3時から4時半

場 所 東京浜松町海員会館 第1会議室

総 会 次 第

- 1 開会の辞
- 2 資格審査
- 3 役員を紹介
- 4 新入会員の紹介
- 5 理事長挨拶
- 6 議長選出（議事録署名人の選任）
- 7 議 事
 - 第1号議案 平成18年度事業報告
 - 第2号議案 平成18年度収支決算
会計監査報告
 - 第3号議案 平成19年度事業計画（案）
 - 第4号議案 平成19年度収支予算（案）
 - 第5号議案 顧問の設置（案）
 - 第6号議案 年会費の変更（案）
 - その他
- 8 議長解任（議事録署名人解任）
- 9 閉 会

総会を終え、ささやかに懇親会を開催。こちらでは活発な意見交換があちこちで展開していました。

研究部会報告

コンテナ取扱施設拡充問題研究部会

『韓国・釜山新港調査報告書』完成 !!

東京港は、TEUベースで2000年に日本国内最大のコンテナ貨物を取扱い、以来7年間全国第一位を保っています。しかし、視点を世界に広げれば、東京港のコンテナ貨物取扱いは2006年時点では第23位に過ぎず、しかもその地位は年々低下を余儀なくされる厳しい状況下におかれています。

一方ここ数年、世界第5位のコンテナ取扱量を誇る釜山港は、そのステータスを堅持し強化するために意欲的な取り組みを進めています。釜山港は、昨年1200万TEUを超えるコンテナ貨物を取扱いましたが、港湾施設のキャパシティが不足し、また老朽化した港湾区域の機能転換＝再開発も不可避などの事情におかれています。そこで1997年に新港湾「釜山新港」

の開発を決定、ここに30バースの新規コンテナ埠頭建設を行うこととし、国家戦略として取り組みを進めています。この新港湾は、2007年1月現在、その一部6バースが完成し、営業を開始している。

当研究会は、釜山港の開発戦略と目論見、現況などを調査・研究し、東京港の参考とするため2007年2月に韓国港湾事情と釜山港の現地調査を実施しました。参加者の印象・感想及び関係資料を報告書にまとめました。

以下に報告書の目次を記します。ご希望の方は事務局までご連絡ください。



『韓国・釜山新港調査報告書』

目 次

- 1 まえがき
- 2 調査報告
 - (1) 自治体国際化協会(CLAIR)ソウル事務所との意見交換会
 - (2) 釜山港湾公社との意見交換会
 - (3) 釜山新港の現地調査・ヒアリング
- 3 参加者の記録
 - (1) 韓国(ソウル～プサン)駆け歩き記
 - (2) 韓国の港湾改革と釜山港
～港湾運営の多様性と自由度の拡大～
 - (3) 釜山新港の今後の課題(私見)
 - (4) 釜山新港視察について(感想)
 - (5) 釜山港視察後の記録
 - (6) 一瞬の韓国・釜山港視察
 - (7) 釜山紀行事務局日誌～幹事の思い出～
- 4 あとがき

資料 : ①活動日程 ②参加メンバー ③クリアよりの事前資料
④釜山港取扱貨物実績等 ⑤クリアへの依頼・お礼等文書
⑥釜山新港平面図 ⑦釜山新港明細
⑧新聞記事(朝鮮日報)

木材部会では、昨夏、貯木場や新木場などの視察を行い、原木や原木産業の変貌の一端をかいまみることができた。現場での認識を基に、古寺道弘氏を講師に、原木や原木産業についての勉強会を昨年12月と今年3月の二回開催した。



《勉強会の概要》

1 原木輸入の最近の傾向について

東京港では、1973年(S48)の3,498千 m^3 をピークに2006年(H18)は190千 m^3 と1/20、特に南洋材は6/100に減少、米材、北洋材などがここ数年輸入ゼロで、東京港は、サバ、サラワクを主とした南洋材に特化している。

南洋材産地の最近の傾向は、発展途上国や中国への輸出が増加していることである。特にサバの中国向けの輸出は、2005年(H17)は2003年(H13)に比し、4.3倍となっているなど産地の輸出構造に変化が見られる。産地の収益性の向上との兼ね合いの中でわが国が外地産地に及ぼす影響力が低下しているとの見方が出ている。

2 木材輸入に関する東京港の地位

2006年(H18)における原木や木材製品を含めた木材輸入に関して、東京港は国内他港に比しいかなる地位にあるかを表にまとめた。

東京港の地位

木材輸入	東京港の地位	備考
南洋材丸太	2位	新潟港1位
南洋材製材品	1位	大阪港2位
輸入合板	8位	名古屋港1位
米材製材	1位	名古屋港2位
欧州製材	2位	神戸港1位
北洋製材	7位	新潟港1位
NZ製材	1位	大阪港2位

3 東京港における原木産業について

製材工場は、新木場に1975年(S50)頃より移転してきた。その中で、少なくとも50社は、丸太から製材していたと見られるが、現在残っている工場は、5社程度である。合板工場は、現在、新木場で1社、東京都下で1社が操業中である。1972年(S47)に比べ19社が工場移転、または廃業した。

新木場では新木場地区の将来のあり方をめぐって産学協同で勉強会も開かれているなど東京港の原木産業は今後さらに大きく転換するのでは、と考えられている。



図表,資料を多く準備され、持ち込まれた合板の見本でその種類を説明。会員も聞いて、見て、触って目から鱗?

環境問題研究部会では下記の勉強会を開催しました。

『スラグを利用した東京港海域環境改善について』

1、日時・場所

2007年2月23日 新日鉄代々木会議室
新日鉄スラグ・セメント事業推進部
中川部長・宮本マネージャ他

2、勉強会の概要

(1) 勉強会の目的

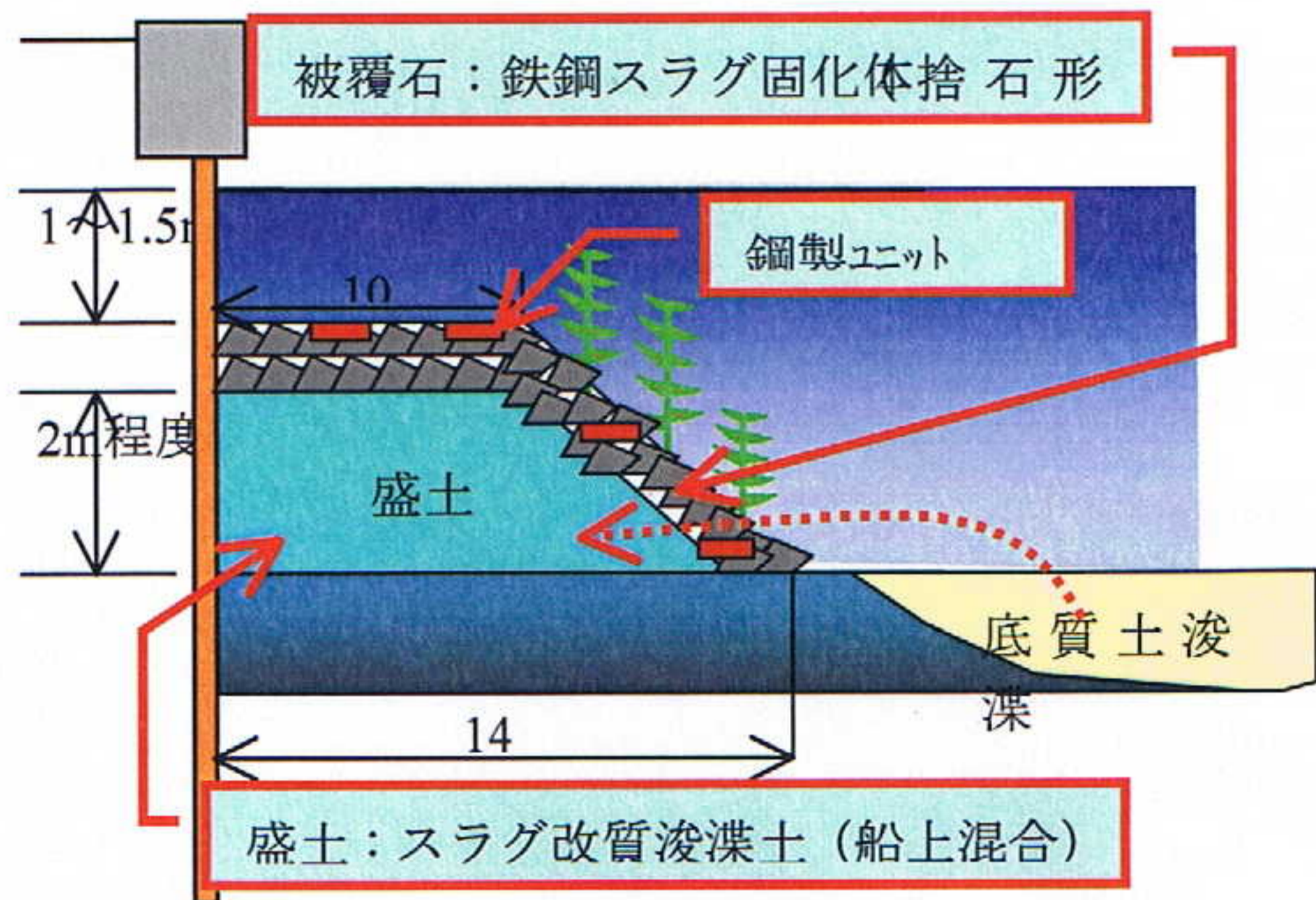
東京港の水質環境改善にむけ、水質汚濁原の改善や運河部の低泥の除去・覆砂、緩傾斜護岸・カニ護岸の整備、浅場の造成等様々な施策が実施されている。これらの施策の一環として、経済性に優れ、水質改善と併に生物が住みやすい水域環境を創出する技術を研究提案する。

(2) 内容

現在、道路の埋め戻し材・地盤改良材・仮道路等の土木資材として利用されている鉄鋼スラグはその成分として鉄分を適度に含んでいる。鉄分は従来山間部の腐植土に含まれており、海に供給され海藻が栄養を吸収する成分としての役割を果たしていた。この、鉄分の供給を鉄鋼スラグにより行えば海藻が発生し栄養塩の吸収や酸素の供給により海域環境が改善される。

従来鉄鋼メーカーは、鉄鋼スラグの鉄分含有量が多い特性に注目し、水域環境改善のための鉄鋼スラグの有効利用を調査してきた。

過年度の実験例として、鉄鋼スラグを加工したブロックを磯やけした北海道増毛町の海岸で投入実験をした結果、大量のコンブが発生した。また、大阪堺浜での実験では鉄鋼スラグがリン酸や硫化物を吸収し水域環境の改善されたことも確認されている。



(3) 試験研究

以上の実験結果を参考にして、今後東京港において、上記効果を確認するために、東京港の船舶航行等支障のない場所を港湾局から借用しデータ収集を行い、その有効性を検証したい。

事務局から

事務局長 大野 皓一郎 090-6018-1013
事務局 清水 武雄 090-3427-0370



総会も無事に終えて、いよいよ19年度の活動が開始されます。かねてより新会員を募集していましたが12名の方々が新たに入会いたしました。

今後とも活発に研究会活動を行ってまいりますのでよろしくお願い致します。